

衣:障害や年齢越え 楽しく

機能とデザイン優れた商品豊富に

毎日新聞 2014年12月27日 東京朝刊



肩を後ろに回さなくても両腕から腕を通せるジャケット



締め付けが少ない尿漏れパッドサポートパンツ



シニア女性の体形データに基づいて作られたイオン「トップバリュセレクト」の服



吉田ヒロミさん (左) のブランド「day to day HIROMI YOSHIDA」 =
東京都港区のハリウッド大学院大学で行われたユニバーサルファッションフェスタで



会場でファッションショーも行った = 東京都港区のハリウッド大学院大学で行われたユニバーサルファッションフェスタで



東京コレクションにも参加している「ハハハ」。ボタンを使わずマグネットを使用している

4人に1人が65歳以上の高齢者となった時代。体が不自由な人や、体形が変化した人でも無理なく着られる「ユニバーサル（普遍的な）ファッション」の必要性が高まっており、多様な商品が登場している。

10月、東京都内で開かれた「ユニバーサルファッションフェスタ」。メーカーなど約30社が展示ブースで商品を紹介し、2日間で約600人が訪れた。「年齢や体形、障害や国籍に関わらず誰もが楽しめるファッション」の普及を進める特定非営利活動法人（NPO）「ユニバーサルファッション協会」（UNIFA）が主催。16年前にUNIFAを設立した今井啓子名誉会長は「設立当時、服のサイズはSとMとLしかなかった。今ではサイズが多様化し、シニアを意識した服作りをするメーカーも増えてきた」と話す。しかし認知度が低いことから、9年ぶりに同フェスタを開催した。

介護衣料品を扱う卸会社「ファミリー・ジョイ」（大阪市中央区）は約30商品を展示。肩の可動域が狭い高齢者が、肩を後ろに回さなくても両脇のファスナーから腕を通せるジャケットや、立ったままや車椅子に座ったままでもはけるよう、足の両サイドにファスナーを付けたズボンなどを紹介した。

衣料品販売会社のピース21（東京都調布市）は、東京都立産業技術研究センター（同江東区）と共同開発した尿漏れパッドサポートパンツと尿道カテーテル対応ズボンなどを展示。サポートパンツは、ウエストと太もも付け根の鼠径（そけい）部を一回りするゴム全体でパッドの重みを支えるため、締め付けが少ない。生地には消臭効果と蒸れを防ぐ機能があるが、スポーティーなデザインと明るい色でおしゃれも意識。カテーテル対応ズボンは、内もも部分のファスナーが膝上まで下げられるので、椅子に座ったまま排せつが可能だ。

流通大手のイオンはプライベートブランド「トップバリュセレクト」として、シニアの体形に合った洋服を今春から全国約400店舗で販売している。文化服装学院（同渋谷区）文化・服装形態機能研究所の伊藤由美子教授が監修。三次元計測器で測った100人以上のシニア女性の体形データを基に、型紙を作成した。例えば、腰が曲がった人が通常の服を着るとシワが寄ったり後ろ身ごろの裾が跳ね上がったりがするが、背中にタックを入れ、後ろ身ごろの着丈を長めにすることですっきり見える。胴回りを太め、アームホールを広めにするなどの工夫も凝らしている。

オートクチュールで有名なデザイナー、吉田ヒロミさんは、5年前に設立したブランド「day to day HIROMI YOSHIDA」のファッションショーを会場で開催した。「朝起きてすぐ着られる服、がコンセプト。機能的で着心地が楽なのはもちろん、トレンド感もあり、年齢に関係なく若い人でも着られます」と吉田さん。毎日洗えるジャージー素材で、ボタンやジッパーを使っていないので頭からかぶるだけで着られる。Sから3Lまでとサイズ展開が豊富で、値段も1万円前後と手ごろだ。今春から東京コレクションに参加、ショーを行っているブランド「ハハ」も、マグネットで着脱できるネクタイや点字がプリントされた洋服などを展示した。

今井名誉会長は「年をとることは失うことだけではないはず。ファッションが、すべての人が前向きに人生を楽しむための手助けとなれば」と話す。【野村房代】＝次回は1月10日で「衣」です。